

令和五(二〇二三)年度 入学試験問題 (一次)

国 語

令和五年一月二十一日

十三時三十分～十四時三十分

〈 全体的な注意事項 〉

- 一 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開けないでください。
- 二 この冊子の本文は、二十一ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明な箇所などがあつた場合には申し出てください。
- 三 試験開始とともに、解答用紙の指定欄に受験番号・氏名を記入し、さらに解答用紙のマーク欄に受験番号をマークしてください。
- 四 解答は解答用紙の所定の解答欄に記入してください。
- 五 問題冊子の余白等は適宜利用してよいですが、どのページも切り離してはいけません。
- 六 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、試験監督者がカードを用いて注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。
- 七 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。持ち帰った場合は、失格となります。
- 八 やむを得ずトイレに行く場合や質問がある場合には、無言で手をあげ、試験監督者の指示に従ってください。

〈 マーク記入上の注意事項 〉

- 一 解答は各設問ごとに指定された数だけ選び、該当する記号を塗りつぶしてください。
- 二 解答には、HBの鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 三 訂正は消しゴムできれいに消してください。

第一問 次の文章を読んで、後の問い（問一～問六）に答えよ。

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

問一 空欄 a) d に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。ただし、同じものを二度以上用いてはならない。

a 1 b 2 c 3 d 4

- ① こうして ② あるいは ③ ただし ④ ちなみに
⑤ もはや ⑥ しかも ⑦ あたかも ⑧ なぜなら

問二 傍線部1「それは次の表のようになる」とあるが、本文と「表」からはどのようなことが読み取れるか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。 5

- ① 科学（サイエンス）は対象との切断や自然支配・制御という方向を基調として発展してきたが、今後は対象との共感・相互作用といった方向に転換を図り、さらなる発展を期すべきである。
- ② 科学（サイエンス）とケアでは、対象とのかかわり方とその背景にある発想が対照的であるが、これからはケアを科学に近づけるだけでなく、科学にケア的な要素を取り入れることが重要になる。
- ③ 科学（サイエンス）は関係性・全体性をもった対象を個別的・一回的な独立した要素へと還元するが、ケアは対象そのものに対する共感や相互作用的な関係の構築を重視するという違いがある。
- ④ 科学（サイエンス）とケアは近年、はじめて近接し融合するかのような兆しを見せており、個別的・一回的な対象との相互作用を重視する「科学としてのケア」の確立が期待されている。
- ⑤ 科学（サイエンス）とケアでは、その自然観や人間観において大きな対立が見られるが、それでも科学はケア的なものを志向し、ケアは科学的なものを志向してきたという歴史的な経緯がある。

問三 傍線部2「ケアの営みがそうであるように」を言い換えた表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、

マークしなさい。 6

- ① ケアの営みが一人ひとりの人間を扱うように
- ② ケアの営みが社会的関係に注目するように
- ③ ケアの営みが科学的な方向性を有するように
- ④ ケアの営みが全てを法則に還元するように
- ⑤ ケアの営みが個別性や多様性を重視するように

問四

空欄

X

・

Y

に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ

選び、マークしなさい。

X

7

- ① 「再現性」を求める人間の意欲もまた高まる
- ② 「再現性」そのものが等閑に付されることになる
- ③ 「再現性」よりも普遍性が目立つようになる
- ④ 「再現性」に伴う困難は漸を追って克服される
- ⑤ 「再現性」の問題が一筋縄ではいかなくなる

- ① 機械論的に把握する
- ② 発展的に解消する
- ③ 近視眼的に評価する
- ④ 温情主義的に保護する
- ⑤ 一体的に統合する

問五

傍線部3「こうした事例が『再現可能』かという点、それは否だろう」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

9

- ① 不登校だった小学生の男の子が困難を克服し、学校に行くことができるようになるまでには、偶然を含む様々な出来事のおかげに、本人の意思という再現不可能なものが働いているから。
- ② 不登校の男の子が小学校に通えるようになったというような事例は、一人の男の子という特定の主体を前提としているため、客観的にその過程を検証し、再現することはできないから。
- ③ 不登校だった男の子が次第に学校に通えるようになったというケースについて、その過程で働いたであろう様々な因子を完全なかたちで再現することは不可能であるから。
- ④ 不登校の男の子が次第に通学できるようになったというような人間にかかわる事例は、地震予知などとは異なり、結果に至る条件を完璧に再現することは原理的に不可能であるから。
- ⑤ 不登校の男の子が再び学校に通えるようになったという事例は、偶然の結果としてそうなっただけであって、同じ条件を用意すれば同じ結果が再現されるわけではないから。

問六 次のイ～ホについて、本文および表と図の内容と合致するものは①に、合致しないものは②に、それぞれマークしなさい。

イ 一七世紀の科学革命を契機として成立した近代科学は、帰納的・経験的な合理性を基盤に置いているという点で、それまでのギリシャ的科学とは一線を画し、また、「ケア」の領域とも疎遠となっていた。10

ロ 現代医療において求められる「ケアの科学」は、自然のもつ内発的な力と相互的にかかわろうとするものであり、そのようなあり方はエピジェネティクスなどにおける自然像とも通じている。11

ハ 「科学としてのケア」が「ケア」を科学に近付けたものであるのに対し、「ケアとしての科学」は科学を「ケア」に近付けたものであるが、今後の医療においては後者の重要性がいつそう高まると予想される。12

ニ 「ケアの科学」は、対象の個性・多様性に注目するという方向をもつと同時に普遍的な原理の追求を進めるという矛盾を抱えているが、その矛盾をいかに解消していくかは今後の大きな課題である。13

ホ 近代においては、「サイエンス」と「ケア」はその方向性や背景にある世界理解という点で分裂していたが、科学のあり方が近年変化してきたこともあり、両者は再び歩み寄るようになっていく。14

第二問 次の文章を読んで、後の問い（問一～問七）に答えよ。

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

問一 空欄 a) f に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。ただし、

同じものを二度以上用いてはならない。

a 15 b 16 c 17 d 18 e 19 f 20

- ① 迎合 ② 風靡ふうび
③ 警句 ④ 環視
⑤ 牽引けんいん ⑥ 本性 ⑦ 厄災 ⑧ 昇華

問二 空欄 X Y に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ

選び、マークしなさい。

X 21

- ① 音楽や演劇に親しむことで、心に「ゆとり」が生まれてくる
② 時間的な「ゆとり」がなければ、芸術に感動する暇もない
③ 「たわみ」があつてこそ、心にも「ゆとり」が生じる
④ 生活に「ゆとり」があるから、劇場に足を運ぶこともできる
⑤ 苦しいときにこそ、人は芸術や芸能に触れようとする

Y 22

- ① 大人にはなりたくないという強い思い
② 大人たちは何をするかわからないという噂うわさ
③ 大人たちは立ち入らないという不文律
④ 大人には従わなければならないという掟おきて
⑤ 大人なんて気にしてられないという焦り

問三 傍線部1「劇場という空間」とあるが、筆者はそれをどのようなものと考えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

23

- ① そこに身を置く人々が感動を他者と共有し、「遊び」ともいえる時間をともに過ごすことによって、自分の人生が充実したものであることを感じることのできる場所である。
- ② そこに身を置く人々が音楽や演劇、舞踊の鑑賞を通して瞬間湯沸かし器のように熱くなる激しい感動を覚え、それを他者とも共有することのできる場所である。
- ③ そこに身を置く人々が感動の化学反応を起こし、ゾクゾクするような快感や興奮を味わうことにより、つかの間の心の「ゆとり」を感じることをできる場所である。
- ④ そこに身を置く人々が芸術や芸能に触れ、感動することによって、「生きている喜びは何なのか？」という問いに対する自分なりの答えを見つげることのできる場所である。
- ⑤ そこに身を置く人々が感動を見知らぬ他者と共有することを通して、自分は決して一人ではなく他者とながっているのだという実感を得ることができるところである。

問四 傍線部2「『広場』に代わる『路地』としての劇場の新たな再生」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適

当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

24

- ① 見知らぬ人同士で感動を共有することのできる「広場」のような劇場は、人々に受け入れられなくなってきているので、それに代わるものとして、プライベートな空間で感動に浸ることのできるかつての「路地」のような劇場を作っていくということ。
- ② 大勢の人々が集い、感動を分かち合う「広場」としての劇場が、コロナ禍によって立ち行かなくなってしまったので、それに代わるものとして、自分たちだけの楽しみに興じることのできる「路地」のような劇場空間を蘇らせていくということ。
- ③ 自分が人とつながっていることを実感できる「広場」としての劇場が、新型コロナウイルスの影響で忌避されるようになってしまったので、それに代わるものとして、広場を縮小再生産したなつかしい「路地」のような劇場空間を作り出していくということ。
- ④ 他者と感動を共有し、孤独をいやすことのできる「広場」のような劇場が、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて機能を果たさなくなってしまったので、それに代わるものとして、かつての「路地」のような機能を劇場に求めていくということ。
- ⑤ 演劇をみんなで楽しみ、感動をその場にいる人々と共有することのできる「広場」のような劇場は、都市化の進行とともに失われてしまったので、それに代わるものとして、演劇を一人で楽しむかつての「路地」のような劇場を建設していくということ。

問五 傍線部3「失われて久しい」を言い換えた表現として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

25

- ① 瞬く間に失われてしまった
- ② 失われてからずいぶんたっている
- ③ ほとんどが失われてしまった
- ④ 失われたかどうかもわからない
- ⑤ 失われるまでに長い時間を要した

問六 傍線部4「自分たちだけで分かち合える『遊び』に興じてみてはどうかと思う」とあるが、筆者がそう思うのはなぜか。その

理由として最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

26

- ① コロナ禍の世界では、大人でも子どもと同じような窮屈さと息苦しさを感じると同時に、童心に帰って路地のような場所で自由に遊びたいと思うようにもなっているから。
- ② コロナ禍の世界では、生活上の細かな行動にまで注意を払うことが求められるため、誰もがそのプレッシャーから逃れることのできる「ニッチな世界」に逃げ込みたくなっているから。
- ③ コロナ禍の世界では、人々の行動の画一化と平準化が進み、個人の自由が脅かされているので、あらためて人間の本质とは何かということが問われるようになってきているから。
- ④ コロナ禍の世界では、定型的に規範化された行動様式から逸脱することは許されず、大人であっても誰かから見張られているような窮屈さと息苦しさを感じるようになってきているから。
- ⑤ コロナ禍の世界では、他者に対するさらなる配慮が要求され、大人でも「いい子」ぶらなければならぬため、子どものような奔放さが羨望の対象になっている状況があるから。

問七 次のイ～へは本文の論の展開に関して述べているが、説明として適当なものは①に、不適当なものは②に、それぞれマークしなさい。なお、①～②6は段落番号を示している。

イ ①と②では、コロナ禍や豪雨の例を挙げて「天災は忘れた頃にやってくる」という心構えをもつことの大切さを述べ、その上で③では、自然災害が多発する現代において何が生きる喜びになるのかという本文の主題を提示している。 27

ロ ④では人間が生きる上で必要な心の「ゆとり」の問題に触れ、⑤ではその「ゆとり」と感動の関連性について筆者は持論を述べているが、それに続く⑥と⑦では、軽佻浮薄けいちょううはつともいえる現代の感動について批判している。 28

ハ 筆者は自身の経験から、劇場とは人々と感動を分かち合う広場のような空間であると考えているが、⑪と⑫の記述からは、コロナ禍を契機として筆者が劇場のあり方について苦慮するようになったことがわかる。 29

ニ ⑬では子どもたちの遊び場としての「路地」について、筆者の経験を織り交ぜつつ説明されているが、そのような「路地」のあり方を踏まえて、筆者は「遊び」に興じることのできる「路地」としての劇場を構想している。 30

ホ 筆者は⑭における提案を踏まえ、⑲ではヨハン・ホイジンガの著作を引用しながら、「遊び」が人間の生に深くかかわるものであるとの見解を示し、さらにその上で、そのような「遊び」を劇中に取り入れるべきであるとしている。 31

ヘ ⑳での問題提起を踏まえ、筆者は㉒から㉔で「路地」としての劇場におけるテントの活用を思いついたとしているが、それは筆者が繰り返し本文で言及してきたコロナ禍における劇場という空間の新たなあり方の一つである。 32

第三問 以下の問い（問一～問五）に答えよ。

問一 次のA～Dについて、傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 船舶から積み荷をヨウリクする。 33

- ① チュウヨウの精神を尊ぶ。
- ② 学校でヨウゴ教諭として働く。
- ③ 南極の氷がヨウカイする。
- ④ 意気ヨウヨウと話し始める。
- ⑤ 社会にドウヨウが広がる。

B 両者の証言がびたりとフゴウする。 34

- ① 争いにシユウシフを打つ。
- ② 新たに鉄道をフセツする。
- ③ 会社の再建にフシンする。
- ④ 突然のフホウに触れて驚く。
- ⑤ 家族をフヨウする義務を負う。

C 患者にコウセイ物質を投与する。 35

- ① 難敵をコウリヤクする。
- ② ドリヨウコウを取り決める。
- ③ コウバイ意欲が衰える。
- ④ コウガン無恥も甚だしい。
- ⑤ 大きなフカコウ力が働く。

D 秋のサワやかな空気に触れる。 36

- ① 調停工作がソウコウする。
- ② 毎朝ソウカイに目覚める。
- ③ ソウダイな景色が広がる。
- ④ 漁船がソウギヨウする。
- ⑤ 地域のセイソウを行う。

問二 次のA～Cの空欄に入る語を、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 一意専

37

B 粒粒

38

C 意味

39

- ① 真 ② 心 ③ 信 ④ 辛 ⑤ 伸 ⑥ 深

問三 次のA～Cのカタカナの語の意味に最も近いものを、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A シニシズム

40

B ペシミズム

41

C ニヒリズム

42

- ① 功利主義 ② 事大主義 ③ 相対主義 ④ 悲観主義 ⑤ 虚無主義 ⑥ 冷笑主義

問四 次のA～Cの類義語として最も適当なものを、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 出色

43

B 險悪

44

C 歴然

45

- ① 明白 ② 卓抜 ③ 一貫 ④ 不穩 ⑤ 曖昧 ⑥ 開始

問五 次のA・Bの言葉の用法として最も適当なものを、後の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 数奇

46

- ① 戦争が起き、家族は数奇な運命にもてあそばれることになった。
- ② 数奇な才能をもって生まれた人間など、ごく少数でしかない。
- ③ 鑑定の結果、作品には数奇なほど高い価値のあることがわかった。
- ④ 予期せぬ質問を受けた総理大臣は、数奇なことを口走った。

B コンセンサス

47

- ① 大規模なコンセンサスがあつたとしても、直ちに影響はない。
- ② 長年にわたる研究のおかげで、コンセンサスは無事に成功した。
- ③ 法律の改正について、国民のコンセンサスを得る必要がある。
- ④ 新事業を始めるにあたり、まず基本的なコンセンサスを提示する。